プリンセス 小公女セーラ

第38話

『こわされた魔法』
（仮）

ＡＲ台本

企画
制作　日本アニメーション株式会社

プリンセス

小公女セーラ

第三十八話　『こわされた魔法』（仮）

登場人物

セーラ……島本須美
ミンチン……中西妙子
アメリア……梨羽由記子
ベッキー……鈴木みえ
アーメンガード……八百板万紀
ロッティ……渡辺菜生子
ピーター……坂本千夏

ラビニア……山田栄子

ジェシー……飯塚はるみ

ガートルード……佐々木るん

モーリー……向殿あさみ

ジェームス……郷里大輔

ジム……

カメラ	画面	音声
1	さえずる雀　T・U（尻一杯） 窓	（雀のさえずり）
	O・L	
2	屋根裏部屋　朝日が天窓からさしこんでいる その天窓からT・B PAN↙ ベッドで寝てるセーラ	
3	静かに目をさますセーラ FOLLOW・PAN つけPAN↗ 半身起き上がり、すっかり元気をとりもどした様子で 心地よげに両手を拡げ、ノビをする ハッと気がつき、テーブルの方を見て、ニッコリする さっとベッド脇の壁をノックする（三回）　ややつけPAN T・U	S・E（コンコン）
4	同・ベッキーの部屋　ベッドで	

	新しい毛布をかけて眠っているベッキー、もぞもぞ寝がえりをうつ　又ノックの音 ハッと目がさめるベッキー		（コンコン、コンコン）
5	ガバッとはね起きるベッキー 返事の壁をトントントンと叩く セーラから壁の音をきく		S・E　（トントン）
6	見て、改めて毛布を見て抱きしめる		
7	ベッキー、毛布をかかえて部屋から出てくる		
8	セーラの部屋のドアの前へ行きノックする		ベッキー「お早うございます、お嬢様」
9	そーっとドアを開ける 着換えたセーラ　昨夜の儘に飾られたテーブルで、残り皿を整え直して入る、イスも昨夜とは違う向きに		セーラ「お早う、ベッキー」

10A	扉をしめ振り返る		ベッキー「わあー……」
10B	テーブルの上の料理ー		
11	にこにことしてベッキーを見る セーラ セーラ、ほほえんで		ベッキー「矢っ張り、今日も魔法は残っててくれましたですねえ」 セーラ「そうよ、ベッキー……でもどうしたの、毛布なんか抱えて……、それはあなたの分のよ」
12	ベッキー		ベッキー「はい……ですがお嬢様……、お話だと昼間は魔法は消えてるんでございましょ」
13	セーラ、手をひろげて		セーラ「ええ……、この間院長先生とモリーさんに調べられた時、ここには何も残っていなかったのよ」
14	ベッキー		ベッキー「矢っ張り、魔法使いが片附けておいてくれたんでございますよ……、そうだとしたらこれも一緒にしておかなくては……」

15A	ベッキー、抱えた毛布を、セーラのベッドに置きに行く					
15B	毛布のマクラをおき——、テーブルの方へ					
16	ほほえんでスープをつぐ、と卓につくセーラ　少しカメラつけて↓			セーラ	「さ、お食事にしましょう」	
17	ベッキーも卓につき			ベッキー	「はい、昨夜はおなかが一杯で随分残してしまったです」	
18	二人、顔を見合わせほほえみ、食事を始める			セーラ ベッキー セーラ 二人 セーラ ベッキー	「火が消えてて、スープは冷たい儘よ」 「なあに、食物が冷たいぐらい馴れてますです、はい」 「まあ……」 「フフフ……」 「さ、いただきましょ」 「いただきます」	
19	スープを飲むセーラ					

20	パンを食べるベッキー　一息ついて		ベッキー「お嬢様……素敵でございますねえ、魔法って」
21	セーラ「？」		セーラ「え……」
22	ベッキー、うれしそうに		ベッキー「私、夢かとばかり思ってましたのに、もう嬉しくて嬉しくて……だってお嬢様、私、生まれてから今日まで、これ程倖せな気分になった事、はじめてなんです」
23	セーラ「？」		セーラ「まあ」
24	宙を見ながらでテーブルを見るセーラに		ベッキー「ほんとに、あんな温い毛布で眠れたの初めてですし、こんなおいしいもの頂けたのも初めてです、なんだかその魔法使いさんを探して、お礼を云わないと申し訳ないような気がして……」
25	テーブルについてる二人からゆっくり　T・B		セーラ「いいのよベッキー……きっと、その魔法使いさんには、私達が心から感謝をしている事が伝わっていると思うわ」 ベッキー「そうでしょうか……」

	セーラ、明るく 天窓に人影が見える		セーラ「そうよ、だってそこが魔法使いなんですもの」 ベッキー「そうでございますねえ」
27	屋根の上　そっと天窓からうかがってる　ラム、ダス、微笑している		
28	同屋根裏部屋　食事を終り立上がるセーラとベッキー 二人、ドアに行き、セーラ、ドアを開ける		セーラ「さ、モリーさん達が起きないうちに台所の支度をしておかなくては」 ベッキー「はい、お嬢様」
29	ベッキー、振返ってテーブルに向って、胸で十字を切る（セーラ、微笑）　二人、部屋を出て行く ドアが閉まる		ベッキー「どうかいつまでも、魔法が続きますように……」 セーラ「まあ……」
30	少し間があって、音もなく天窓が開き、飛び降りて来るラム、ダス（手前におりること）	A・C	

31	スッと立って　ニヤッとドアを見てから 天窓の召使い、二人に合図する		A・C
32	うなづく二人の召使い		
33A	火をフイゴで起こすベッキー		
33B	大鍋にイモを入れているセーラ		
34	入口からモーリーとジェームスが、のっそりと入って来る 大きくのびをするジェームス		
35	セーラ、大鍋に手をかけながら	セーラ　「あ、お早うございます、モリーさんにジェームスさん」	
36	振り向くベッキー　立上る	ベッキー「お早うございます」	
37	怪訝な表情で、見つめるジェームスとモーリー	ジェームス「ああ……」	
38	ベッキー、スープの鍋をもって		

	in ー out 通る時、セーラにニコッと笑いかける セーラも続く	
39	疑わし気に二人を見て、顔を合わせ	モーリー「見てよ、セーラのあの顔色のよさ」
40	台所から出て行くセーラとベッキー	
41	モーリーとジェームス、台所の中央に来て 二人、戸棚の方へ行く	ジェームス「やっぱり俺達のいねえ間に、残り物でもたら腹食ってやがったんだぜ」 モーリー「しらべてみようよ」 ジェームス「ああ」
42	ジェームスの手が、戸棚の扉を開けていく	
43A	戸棚の中を調べるジェームス モーリー、入ってくる	
43B	立上がり、そっくり残ってる肉パイを見て、二人不思議な顔を	ジェームス「おかしいな、全部残ってるぜ」 二人「？　……！」

	する	44	同廊下　アメリアが振鈴を鳴らす	45	同地下の食堂　テーブルの皿にパンを配るセーラの手	46	スープを用意しているベッキー
	、						

47	ロッティ、アーメンガード達入って来る	48	ロッティ、タッタッタとFr・in アーメンガードもゆっくりFr・in	49	ドアの付近で顔を見合わせるラビニア、ジェシー、ガートルード　他の女生徒		
ロッティ「お早う、セーラママ！」		セーラ「お早う、ロッティ」 アーメンガード「お早う、セーラ、元気？」 セーラ「有難うアーメンガード、とても元気よ」 ロッティ「わーいよかった！」		ジェシー「ほんと、セーラったら随分元気になっちゃって、とても病み上がりには見えないわ」			

50	パンを配り終え、ロッティ達と楽しそうに笑ってる他の女生徒、適当に席につく		
51	ラビニア、冷笑して ジェシー、のり出して		ガートルード「不思議だわ……院長先生が、メイド代りのあの人に栄養の有る食事をさせる筈ないのに」 ラビニア「フン、もしかしたら、セーラお得意のつもりのせいかもよ」 ジェシー「つもり？」 ラビニア「ほら、さんざんやってたでしょ、プリンセスになったつもり……あれと同じで、なにか食べたつもりにでもなってるのよ」
52	ふき出すガートルード		ガートルード「プッ！　可愛想……」
53	冷笑する三人 入って来るミンチン、アメリア ラビニア、それに気づき　ジェシー、ガートルードもあいさつをしてFr・out		三　人　「フフフ……」 ラビニア「お早うございます、院長先生！」 ジェシー・ガートルード「お早うございます」

54	自分の席につく　一同もあいさつする		女生徒達「お早うございます……」
55	ふっとセーラに視線を向ける		ミンチン「お早う、皆さん……」
56	明るくあいさつするセーラ ベッキーも		セーラ　「お早うございます院長先生……」 ベッキー「お早うございます」
57	ミンチン、アメリア、怪訝な表情で		ミンチン・アメリア「……」
58	同地下の作業場　皿を洗ってるセーラの手		
59A	明るく皿や鍋を洗ってるセーラとベッキー		
59B	机の上に拳が強く叩かれる		
60	キリキリしているミンチン、 扉をしめて振り返るアメリア ミンチンの背を見つめて立つア		ミンチン「あのセーラ〜!!　やに元気そうね……」 アメリア「ええ、ほんとにすっかり良くなって…」 ミンチン「フン、お医者にかけてやったのも忘

	メリア、きまづい顔をする		れて、皿色ばかりよくなって」
62	アメリア		アメリア「ひと頃は、お腹をすかせて、今にも倒れそうに見えましたのに」
63	キッとふり返り、ジロッと見る		ミンチン「お腹をすかせて倒れそうですって？」
64	アメリア、立止まり		アメリア「いえ、あの、そう見えただけで」
65	体ごと振り返り		ミンチン「お黙り……セーラには、充分に食べさせています。お腹をすかせてるだの倒れそうだの、世間態の悪い事、口にするんじゃありません！」
66	くるっと振り向いて　cut だけアメリアに向けて　尻、顔		アメリア「す、すみません、お姉様」 ミンチン「モリーとジェームスに、聞く事があります、呼んでおいで」
67	あわててFr・out		アメリア「は、はい、お姉様」
68	(off)でドアの閉る音 手前を向き、窓の方へ行く		

69	窓際に立ち、考えこむミンチン							
70	同台所							
71	洗い終った皿、食器を片附けてるセーラとベッキー→PANすると、その傍でモーリーとジェームスがひとやすみしている							
72	そこへ顔を出すアメリア	アメリア「モリー、ジェームス……院長先生がお呼びよ」						
73	あわてて立上り	モーリー「はい、ただいま」						
74	アメリア去る							
75	顔を見合わせFr・out							
76	モーリー、ジェームスin・out セーラ、ベッキー、チラッと見る	S・E（　　）						

78	同院長室　腕をうしろに組んで歩き廻っているミンチン ノックの音にふり返る		ミンチン「お入り……」
79	ドアが開き、モーリーとジェームスが、おずおずと入ってくる		モーリー「お呼びだそうで……」
80	ミンチン、歩み寄りつつ		ミンチン「そう……実は、セーラの事で聞きたい事があってね」
81	顔を見合わせるモーリーとジェームス		
82	ミンチン		ミンチン「あの子、この頃、馬鹿に元気そうになったけど、まさか必要以上の食事を与えているのではないでしょうね」
83	モーリーとジェームス、びっくり		モーリー「とんでもない院長先生……」 ジェームス「その事でしたら、わしらも奇妙に思ってる事があるんで」
84	ミンチン、ぎょっとする		ミンチン「なんですって？」

85	同廊下　アメリア、授業開始の振鈴を鳴らす	
86	同院長室　cut一杯　T・U	モーリー「と云う訳で、セーラ達がどこでつまみ食いしてるか、今だにつきとめられないんで、ございますよ」
87	くるっとうしろを向く	ミンチン「成程……判りました……」
88	ミンチン、二歩前へ出て	ミンチン「矢張り、セーラの行動に充分注意する必要があるようです」
89	少し間 ミンチン、くるっとふり向き	ミンチン「モーリー、ジェームス」 モーリー・ジェームス「は、はい」
90	ミンチン	ミンチン「お前達にやってもらいたい事があります」
91	モーリーとジェームス	モーリー・ジェームス「はい、院長先生……」
92	買物篭を抱えたセーラが使用人	

	階段を上って来て街路へ							
94	セーラのあとをつけはじめる							
95	焚火をしてる男達からＰＡＮ←							
96	町中							
97	野菜の詰った買物籠を提げたピーターが、リンゴをかじりながらセーラと来る　そのセーラの手にもピーターの渡したリンゴが握られている							
98	ＦＯＬＬＯＷ　リンゴが宙にまう in・out　二回ぐらい							
99	ＦＯＬＬＯＷ　リンゴをとり、ぽんぽんほうりながら							ピーター「いやあ、煙突掃除に化けて、お嬢さんの屋根裏部屋にたどりついたまではいいけど」
100	ＦＯＬＬＯＷ←							ピーター「とに角、鼻の穴ん中までススだらけで、洗っても洗っても……くしゃみが

	とリンゴをかじる		とまるのに一週間もかかりましたよ」
101	セーラ、ニッコリFOLLOW↗		セーラ「まあ、セーラ」
102	笑いながらFr・outするピーター セーラ モーリーFr・in		
103	店のカゲにかくれる　店の人、変な顔をする　モーリー、さっとFr・out		
104	立ち停まるセーラとピーター とFr・out		ピーター「じゃ、お嬢さん、今日はここで……僕に出来ることがあったら、なんでも云いつけて下さいね」 セーラ「ええ、有難うピーター」 ピーター「じゃあ」 セーラ「さようなら」
105	奥へ走って行くピーター		
106	リンゴを見てほほえむセーラ		

	後ろでモーリー、さっと店のカゲにかくれる 右へFr・out		
107	つけて来たモーリー、そーっととって返す　T・U		
108	愕然となって椅子から立上るミンチン　FOLLOW・PAN	ミンチン「なんですって……あのピーターが、煙突掃除でこの学院へ……?!」	
109	もみ手をし乍ら前に出るモーリー　びっくりとした顔をしてモーリーを見るアメリア	モーリー「……はい！　……院長先生！」	
110	顔を突き出すようにして話すモーリー	モーリー「……なにしろ、本人のピーターが喋ってたんでございますから間違いありませんです……」	
111	キリキリと逆立つ眉毛、震える口唇		
112	はっとなる	モーリー「……あ……そう云えば……あのとき	

	113	114	115	116	117	118	119	120
						112書き足し兼用 口惜しそうな顔のモーリー 激怒の表情、口唇をかみ、ミンチンを見つめる（確信に充ちているモーリー）	茫然と顔を見合わせる二人	いやらしい目付で上目使いのモーリー
……」						モーリー「……う……あのピーターだったに相違ありませんです、はい！」		モーリー「それに……セーラはピーターから、リンゴなんぞ貰っておりましたですから、

121	ミンチンの口唇がゆがみ、肩がつり上って――	いろいろ食物を貰っていたに違いございません……」 ミンチン「な……なんと云う事だ……！」
122	スカートを握りしめるミンチン	
123	激怒にゆがむ顔 くるりと背を見せる	ミンチン「う……！」
124	スタスタと行くミンチンの足、in・out	
125	唖然として見つめる二人	
126	窓辺に立ち、いかに立ちつくすミンチン	
127	激怒のミンチンを見つめる二人顔を見合わせ、すぐもどし、愛想よく（モーリー）オソルオソル、後を意識して目うごかし、直ぐ元にもどす	モーリー「院長先生……実は、私ども奇妙に思っていたんでございますよ……、あの市場に、お使いに出す時に限って、セーラが嬉しそうな様子だったんでござ

	大きくうなづく		いますから……」 ミンチン「……そう……！」
128	モーリー		モーリー「その上、決って時間が長くかかって……それもこれも、あのピーターが原因だったのですよ……」
129	ミンチンの後ろ姿		
130	顔を見合わせる二人 はっとなって、ミンチンを見る二人		ミンチン(off)「あめりア――！」 アメリア「はい――お姉様！」
131	くるりと振り返るミンチン 前へスタスタと歩くミンチン		ミンチン「セーラの部屋を調べます」
132	二人、前を通っていくミンチンを目でおう		ミンチン「……来るんです！」
133	一歩前に出て		アメリア「……お姉様……！」
134	眠っているシーザー、心地よさそうに尾を振っている　三階の		

	廊下である ミンチンが階段を昇ってくる	135 噴然とした表情で階段を昇っていくミンチン 後を流れるようにつづくアメリア	136 気もちよさそうに尾を振り眠っているシーザー 足早に登って来たミンチンに、尾を踏まれるシーザー、飛び上る	137 一瞬止まり、ちらりと下を見るがそそくさと歩くミンチン つづいて来るアメリア、 ちらりと、シーザーを見下ろすが、そのまま歩く（out）	138 手前にくるアメリアを見つめるシーザー 手前くるシーザー、にらんで背
			シーザー「ウギーアーッ!!」		

	を立ておこる		シーザー「う――!!」
139	扉の方へ急ぐ二人		
140	唸るシーザー 口惜しまぐれに、ジュータンをかきむしる		
141	重そうに買物籠をかかえて歩くセーラ　FOLLOW		
142	通りを渡っていくセーラ　in→		
143	屋根裏の廊下　ミンチン現われる　止ったミンチンの前を通りアメリア、部屋のドアに手をかける		
144	セーラから買物籠を受けとるジェームス		
145	いやみたっぷりに、セーラと籠を見較べてるジェームス		ジェームス「フン、随分時間がかかったじゃねえか……、どこまでいってたんだ……」

146	いやみな顔で傍へ来るモーリー二人、顔を見合わせーにやりとしてセーラの方をのぞきこむように見る		モーリー「お前が、どこで道草くってたか位、あたし達にはちゃんとお見通しなんだからね」
147	唖然とした表情からくもる眉のセーラと心配そうなベッキー		
148	146同ポジ セーラFr・out　ベッキーもout		モーリー「さあさあ、ボヤボヤしてないで、早く洗濯物をとり込んでおいで……日が暮れてしまうよ」 セーラ「はい、モーリーさん」
149	見送ってた二人　顔を見合わせてニヤリとする		S・E（扉の開閉の音）
150	キョロキョロと見回しているミンチンを、心配げに見つめるアメリア		
151	部屋をキョロキョロ探してるミンチン　傍でオロオロしているアメリア ミンチン、ベッドをたんねんに調べながら		ミンチン「いいですか、アメリア……あのセーラは、ピーターを使ってこの屋根裏部屋に、私達の知らない世界を作ろうとしていたんです……そんな事を許す訳に行きますか」

	ミンチン、ベッドの下をのぞく		アメリア「で、でも、お姉様……」
152	ベッドの下をキョロキョロ探す		ミンチン「……、私の推理に間違いはない筈です！　ん？」
153	おき上りーベッドを押したり、たたいて見る ジロリジロリと見回してー、エミリーの方で止るー　ゆがむ口唇		
154	エミリー		
155	にらみつけ　エミリーを手にとり、ためつすがめつして見るミンチン　ほうりだすミンチン		
156	ベッドにおちるエミリー（はずむ手と足）		
157	はたくとベッドにおちる手、にらんでいるミンチンをじっと見つめるアメリア フンといった表情で立上るミンチン	A・C	

158	立ちあがってアメリアをにらみ直立するアメリア	A・C	ミンチン「アメリア！　そんな所にボンヤリ立ってないで、早く証拠を探し出すんです！」
159	おそれうなづくアメリア あわてて暖炉の方へ行く		アメリア「は、はい、お姉様……」
160	暖炉の中を調べるアメリア		
161	中をのぞきこみ見るアメリア、後ろでベットの奥の方をしらべるミンチン		
162	毛布をつまみもち上げて見るミンチン、下ろして噴然とした顔で見下ろし見回す		
163	さらにベットの奥をさがす		
165	元にもどし、フーと息をつき、つづらのある方を見る、はっていくアメリア		

166	床に下をつき行くアメリア、見廻し乍ら		
167	ネヅミの穴、ツヅラ、FOLLOW		
168	机の上を調べるミンチン		
169	つづらをあけようとすると壁穴から顔を出すメル一家		
170	怪訝そうに、アメリアを見上げる		
171	ふっと視線を移すと		
172	メル一家と、目があってしまうチビ出て来て後足で立って見る（目パチ）		
173	一瞬、声が出ない	アメリア「アワワワ……」	
174	アメリアの悲鳴があがりメル一	アメリア(off)「キャーッ！」	

	家さっと穴にもどる		
175	驚いて腰をついたアメリア、後ずさりする		アメリア「…ア…ア……あ……!! 〜 ……あ…ネズ…ミー、ネズ…ミ…」
176	後ずさりするアメリアを冷い目で見つめるミンチン		
177	みつめる冷い目、穴の方を見る		
178	再び出て来て見つめるメル一家		
179	ゆれるガス灯と公園の木木が黒々としている、夜である		
180	全景から居間の窓から灯が漏れている、クリスフォード家 隣りのミンチン学園にT・U ミンチン学園の窓灯が次々に消えて行く		
181	夜の一階廊下は灯が消えて暗い —BANKあり—		

182	地下の暗い廊下に半びらきき作業場の扉から灯がもれている				
183	アイロンをかけているセーラと終ったものをたたむベッキー（シーツ、タオル類）				
184	アイロンをかけるセーラと、たたむベッキー たたんだものをもって戸棚の方へ行くベッキー、（out） 一人アイロンをかけるセーラ				
185	棚にたたんだものをおくベッキー。扉の方を見るベッキー		S・E（扉のひらく音）		
186	ジェームスが部屋をのぞく		ジェームス「……なんだ、まだ終らないのかー！」		
187	モーリーも来て二人を見て 二人の方に体を向けるセーラ ジェームス、モーリー、うなづき扉をしめる		モーリー「……なにやらしても遅いんだから……いいかい…火の元に気をつけるんだよ…！」 セーラ「はい……おやすみなさい、モーリーさん、ジェームスさん」 ベッキー「おやすみなささい」		

188	二人顔を見合せてにやりとしてあるいて去る		
189	アイロンをかけるセーラの傍に戻ってくるベッキー、顔を近づけてセーラにささやく セーラ、ベッキーを見て顔を見合せて笑い合う二人		ベッキー「……お嬢様、これでせいせいして仕事が出来ますね」 セーラ「まあ……ベッキーったら…」 二人「……フフフフフ…」
190	ゆれるランプの灯		
191	C#—183兼用 仕事をつづける二人		
192	窓の外は暗い　T・B 扉がひらく		
193	セーラ手燭をもって出てくる 部屋暗くなる（BGOL） 出て来るベッキー、ドアを閉めてほっと吐息をついて うなづくベッキー		ベッキー「やれやれ……やっと片付きましたね…」 セーラ「ええ……さ行きましょう…」

194	暗い廊下、地下から登ってくる二人（手燭をもっている） レイアウト・A—20		
195	一階廊下に出てくる二人 レイアウト・A—20 止り、セーラの方を向くベッキー	ベッキー「お嬢様！」 セーラ「え……?!」	
196	顔をよせて底い小さな声で話すベッキー	ベッキー「あのォ……お部屋の魔法……。今夜も続いているでしょうか…」	
197	ほほえむセーラ	セーラ「そうね……判らないけど私はきっと続いているような気がするわ」	
198	にっこりとうれしい顔になる	ベッキー「わあ……。お嬢様、私、とても愉しみなんでございます。……今夜はどんな魔法のご馳走が頂けるかって…」	
199	セーラ、微笑	セーラ「まあ……じゃあ早速、確かめに行きましょう」 ベッキー「はい、お嬢様、ほんと云うと私、さっ	

	顔を突き出すようにして見つめ合い笑う	きからお腹がペコペコで、グウグウ鳴ってるんでございます」 セーラ「まあ、私もよ」 二人「フフフ……」
200	三階の階段を手燭を持って上がってくるセーラ、ベッキー PAN・TUすると眠ってるシーザー眼をさましてセーラの方へ行く	シーザー「ニャーア」
201	歩いてくるセーラの足元にすり寄るシーザー、セーラ小声で	シーザー「ニャーア」 セーラ「シーザー！」
202	足にカオをすり寄せるシーザー セーラ、そっとしゃがみ首の下をなでながら小声で シーザーも小声で	シーザー「ニャーアオ！」 セーラ「シーイッ、また明日ね、シーザー、おやすみ」 シーザー「ニォーオ」
203	セーラ、立ち上がり、屋根裏部屋へのドアに向う、後を追うシーザー、手前のミンチンの扉が個く開く	

204	手前に来る三人を追うシーザー 奥の扉からのぞくミンチン、しまる扉				
205	見上げるシーザー	シーザー「ニャーオ」			
206	手を振るベッキーと。微笑しているセーラ、扉をしめる 見送っていたシーザー、うづくまり、大きなアクビをして目つむっていく	ベッキー「おやすみ……シーザー」			
207	暗い部屋の廊下に、ゆっくり開いていくミンチンの部屋の扉				
208	ソーッと出てくるミンチン、室内に合図すると、モーリー、ジェームス、そーっと出てくる モーリー、ランプをもってる 屋根裏部屋のドアの方へ近づく				
209	眠っているシーザー、目をさましおき上る				

210	シーザー唸って三人の足許へ、止るミンチン。ジェームス前へ出てシーザーをけろうとするとっさに身をかわして逃げるシーザー		ミンチン「シーッ!!」
211	チラッと見て前へ進む		
212	扉の方へ行くミンチンにつづくモーリー、後を振り向き、おこるジェームス		
213	尾を立てて唸るシーザー		シーザー「ウ〜ッ!!」
214	inするセーラ、ベッキー		
215	ドアの前でカオを見合わせる二人。ベッキー不安気、セーラは微笑している		ベッキー「お嬢様、どきどきしますですねえ」 セーラ「ええ…」
216	モーリーが手燭をもちそーっとドアをあけるミンチン、ジェームス後につづく		

217	ドアがしまる、少ししてラビニアのドアが細く開く					
218	ラビニアそっと見送りニヤリとする					
219	C#—217兼用書き足し ラビニア出て来て、そーっと様子をうかがう					
220	耳を扉につけてうかがう ニヤリとして、サっと、Fr・out していく					
221	屋根裏への階段にぐっとのびていく蔭					
222	ドアが開き、手燭を手にしたセーラとベッキーが入る（一歩） 目を見はる					
223	テーブル一杯の料理が七彩の光りに輝いている					

224	ダンロの上の花や燭台		
225	喜び一杯の表情で見つめる二人		
226	ベットのＵＰ	セーラ(off)「みんな魔法使いさんからの贈物なのよ……」	
227	うっとりと眺め回す二人		
228	顔を見合わす二人 にこにこするセーラ	ベッキー「……すてきですわ…お嬢様……私達本当に魔法の世界に帰って来てるんですねェ…」	
229	食卓の上の食器がキラキラと輝いている	セーラ(off)「……みんな、魔法使いさんからの贈りものなのよ…」	
230	セーラ、ダンロの上に手燭をおいて 喜々となっているベッキー 椅子を引いて座るベッキーと自席の方へいくセーラ	セーラ　「さ、ベッキー感謝して頂きましょうよ…」 ベッキー「ハイ……お嬢様!!」	
231	座るセーラ、ナプキンをとって		

	ひざへ	232 にこにこしてナプキンをひざにあてるベッキー	233 二人、卓上をながめ回して	234 セーラ、空想の世界にひたって	235 夢見るようにセーラのハミングに気づき
			ベッキー「お嬢様……なんだか、私達、ベルサイユ宮殿に招待されたみたいでございますね」	セーラ「そうよ、ここはベルサイユ宮殿の一室、そして今夜は舞踏会の夜、はなやかなワルツが流れているのよ」	ベッキー「はァ〜ッ、すてきでございますねぇ…」 セーラ「ラーラーラー」

	236
	セーラー、ナプキンをスカートに見たて、フォークを足にしてテーブルの上でダンスをおどらせている 一小節おどらせておじぎをするような感じを出させる
	セーラ「ラーラ、ラ……」 ベッキー「うわー、素敵ーっ！」

237	拍手するベッキー、セーラ、ナプキンとフォークをかたし、ポタージュの銀食器に手をのばし		セーラ「フフフ……さあ、さめないうちにいただきましょう」 ベッキー「ええ」
238	ゆっくりフタをとると、もうもうと昇る湯気		
239	その時、バタンとドアの開く音 ハッとするベッキー （振り返る）		ベッキー「うわあ、おいしそう！　うーん、いいにおい」
240	あっとなるセーラ		
241	開いたドアロにミンチンとモーリー、ジェームスが目を見開いて立尽している　PAN・UP↑ （カット頭から）尻止め		
242	立ちあがるセーラ、ベッキー		セーラ「院長先生！」
243	音をたてて床にころがるフタ		
244	にらむミンチン		

245	スカートを握りしめているミンチンの手、戦く二人							
246	ミンチン、ゆっくりとテーブルに近づく、ベッキー少しあとずさりするがテーブルにつかえる							
247	テーブルをにらむミンチン							
248	後へ来てのぞきこむジェームスとモーリー					ミンチン「お、お前という娘は……なんて大胆な事を……」		
249	ハッとしたベッキー							
250	ベッキー、ミンチンの前に倒れこみ							
251	（ACつなぎ）土下座する					ベッキー「お、お許し下さいまし、これはお嬢様がやった事じゃありません…」		
252							(off)	「みんな、すぐ消えるただの魔法なんでございます！」

253			明日の朝になればパッと消えてしまうんでございます」
254	C#—251兼用書き足し じっと見上げてうつむく		ベッキー「…院長先生本当なんでございます」
255	ミンチン ミンチン、モーリーに目で合図する、モーリーうなずいて前へ出る		ミンチン「お黙り！ 魔法なんてあるはずないでしょう、モーリー」 モーリー「はい」
256	モーリー素早くベッキーの腕を掴んで横へ引きずり立てる、呼ばれ前へ行くセーラ		ミンチン「セーラ！ この仕掛けを誰が、やったのか、私には判っています」
257	はっと見るセーラ		
258	はっと見るモーリーにつかまれたベッキー		
259			ミンチン「全く。煙突掃除やピーターを使ってこんな事をさせていたなんて…」

260	思わずセーラ、ベッキー、カオを見あわせる					
261	ミンチン ジェームス、out		ミンチン「フン、どうせ、あの連中に盗んで来させた、品物でしょう。ジェームス、構わないから全部取上げておしまい！」 ジェームス「へい、院長先生！」			
262	ジェームス、ベットの毛布をかかえて出て行く、その時、エミリーが落ちる					
263	ジェームスの足、out 落ちるエミリーと写真					
264	ダッとout		セーラ「あっ、エミリー」			
265	エミリーをだきしめる					
266	ドア外に投げだすジェームス、エミリーを抱くセーラをじっと見つめる冷たいミンチン、素早くもどってくる					

267	モーリーにつかまっているベッキー。ダンロの上の燭台をとり上げる		
268	ジェームス、テーブルの上のものを片付け出す		
269		ベッキー「あ……あ…魔法が……」	
270	いやらしい笑いを口許に浮べているミンチン	ミンチン「セーラ、お前にはもう、この屋根裏に住ませる訳には行きません」	
271	はっとなってミンチンを見上げる	セーラ「えっ！」	
272	フンといった目でにらみ、モーリーの方を見るミンチン	ミンチン「モーリー、つれて来なさい」	
273	と、セーラの方へ行く	モーリー「はい、院長先生」	
274	モーリー、セーラの傍に来て立ち上らせる		

275	手をつかまれ立ち上ったセーラ モーリーをみつめる、フンといった表情で、グンと引くモーリ						
276	見送るベッキー					ベッキー「おじょうさま！」	
277	引かれて出ていくセーラ						
278	冷やかな表情のミンチン						
279	屋根裏部屋への階段口のドアから エミリーと父の写真類だけを抱いたセーラの腕を引き立てて出て来るモーリーと続くミンチン アメリア、Fr・inして廊下で茫然と見迎えるアメリア						
280	見送るアメリア						
281	奥へ行くモーリー、セーラ、見送るミンチン、アメリア						
282	階段をおりてくるモーリー、セ						

	ーラ		
283	びっくりしながら見ているロッティ、アーメンガード		
284	同じく、ラビニア、ジェン、ガードルート		
285	引きたてられて、降りて行くセーラ	モーリー「さ、来るんだよ」	
286	画面を横切るセーラ		
287	ベッキー、オロオロ		
288	泣き顔で	ロッティ「セ、セーラママ……」	
289	冷笑で見送るラビニア、ジェーシー、ガートルード迄		
290	セーラ、モーリー、Fr・out ロッティ階段の所までタタタと来て	ロッティ「セーラママー」	

291	ドアが開き、セーラを引立てて出て来る。風でゆれるロープ				
292	外を見るセーラ。髪の毛がゆれる、グっとエミリーを抱きしめるセーラ、押され出ていく				
293	馬小屋に向う、スライディング				
294	扉が開き、セーラを引き立てて出て来る				
295	カゲがinしてから、突き飛ばされてワラに倒れ込むセーラ				
296	バシッ！　と扉をしめる ―間―　起きあがるセーラ、エミリーと写真を拾い上げるセーラ、じっと見る T・U（ゆっくり）				モーリー「フン、院長先生がお前の寝倉は今夜から、そこだとさ。たっぷりいい夢を見るんだね」 セーラのN「私が移された新しい寝場所はなんと、ジャンプがいた馬小屋だったので

O・L

す……魔法は無惨に壊されたのでした」

297	唇をかむセーラの眼に見る間に屈辱の涙が流れて来る T・U（ゆっくり）	O・L
298	エミリーと写真	
299	エミリーと写真を見ていたが、グッと抱きしめるセーラ F・O	

〈おわり〉